

鴨沂高校同窓会報

—第7号—

京都府立鴨沂高等学校同窓会
〒602-0856
京都市上京区荒神口通寺町東入鴨沂会館内
TEL & FAX 075-212-4445



同窓会を思う

鴨沂高校同窓会会長

猪熊兼勝

来をどうするか、である。

歴史や伝統は、常に次世代に継承されるべきものである。継承とは、単に受動的に守っていくことではなく、歴史の中に培われた良きものを伝えていくシステムや考え方、日本文化の凝縮する京都の洗練を重ねた美意識を生かして、新たな創造を生み出す「源」と出来るようにすることである。

続いていてこそ未来が生まれ、継承してこそ発展がある。私達も良き校風の幾らかでも若い世代へ伝える努力を心がけねばならない。夢は、二つの同窓会の最善の形の大同団結である。一歩ずつ、足跡を確かめながら進みたい。

木戸孝允、伊藤博文、山形有朋、三条実美、西郷隆盛ら現代日本を創生した史上の賢人たちは土手町丸太町下・旧九条家の門をくぐった。新しく開校した話題の女子教育の現場を視察に来た人々である。さらに、有栖川宮やドイツの皇太子をはじめ、内外の皇族、大使の姿もあった。明治五年四月、「新英語学校・女紅場」―後に、府立第一高等女学校に校名変更―として開校した母校は、一五九名の女子生徒に英国人夫妻を教師とし、女性に門戸を開いた。開校一ヶ月後、明治天皇、井上馨ら明治の元勳が視察に訪れている。

八十年後の昭和二十二年、教育改革によつて「府一」は幕を閉じることとなった。しかし、同窓の集いである「鴨沂」会の名称は、それを校名とした新制の高等学校―我が鴨沂高校に、学舎とともに引継がれた。伝統ある府一のDNAは、「鴨沂」のなかに脈々と息づいている。私事で恐縮であるが、府一で古典の講義を受け持った曾祖父と祖父に続き、新制高校になった母校の三期生に兄、そして八期生に私も加えさせて戴いている。我が家では、約一世紀にわたつて、九条家から移築された正門をくぐったことになる。

もくじ

- ◆会長挨拶／総会案内 …… (1)
- ◆理事会からの報告と
同窓会役員名簿 …… (2)
- ◆同窓会開催報告 …… (3)
= 関東支部ほか各期より =
- ◆鴨沂にまつわる三冊の
「書籍案内」 …… (6)
- ◆『京都鴨沂会』から …… (7)
- ◆会計報告とおねがい …… (8)
- ◆編集後記 …… (8)

平成17年度 京都府立 鴨沂高校同窓会総会のご案内



日 時……平成17年11月20日 (日)
 16:30～第一部 総会議事
 18:00～第二部 懇親会
 (懇親会は20:00頃終宴の予定)

会 場……ウエスティン都ホテル京都
 京都市東山区三条蹴上 ☎075-771-7111(代)
 地下鉄東西線「蹴上駅」下車

会 費……7,000円 ※当日お支払い下さい。

※準備の都合上11月4日(金)までに同封のはがきで(誠に恐縮ですが50円切手を貼って)出欠の連絡をお願いします。同窓生とお誘い合わせ下さい。

◆理事会からの報告◆

理事長 西尾 齊

同窓生の皆様には、ご健勝で、ご活躍のことと存じます。日頃は、同窓会のため種々ご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

鴨沂高校同窓会は、三年ごとに総会を開催することになっております。今年はその総会開催の年に当たっており、十一月二十日(日)に開催することと致しました。

総会開催に向け、数回の理事会での協議を経て会長以下、各理事(別記一)が役割を分担して準備に取り組んでいます。同窓生の皆様には、是非ともご出席くださいますよう、お願い申し上げます。

当面の取り組み、これからの課題について以下のとおりご報告申し上げます。

①名簿管理用コンピュータの移設と機種の更新

同窓会では、京都鴨沂会の協力を得て、母校の北運動場東隣にある「鴨沂会館」に事務局(電話・FAX設置)を設けておりますが、今回さらに会館スペースの一角の利用を認めて頂きました。これに伴い、これまで理事個人に運用を委ねておりました名簿管理用コンピュータを昨年六月、「鴨沂会館」に移設いたしました。一方、機械本体の老朽化が著しくこれ以上の使用は無理との専門家の指摘を受け、本年五月に機種本体・プリンター(別記二)ともに買い替えました。なお、週の一日(概ね土曜日、十時半～十五時)は理事が事務局に詰め、会員からの照会の処理、データの管理等に当たっています。

②個人情報保護法の施行に伴うデータ管理の適正化

すでにご承知のことと思いますが、本年四月一日から「個人情報保護に関する法律」(個人情報保護法)が施行されました。同窓会は、法律上「個人情報取扱事業者」に該当します。今後、登録データの範囲、利用目的等管理名簿の取扱いについては、「会員名簿の取扱いについて」(別記三)のとおりと致したく、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

③法人格の取得について

鴨沂高校同窓会の会員数は、今年三月卒業の五十七期生を加え二万五千名に達しています。同窓会は、理事・役員の手弁当によるボランティアによって運営されていますが、昨今の状況から積立金の運用、会員名簿の管理など同窓会の事務処理を制度化し、より組織的に行うことが要請されているところです。総会での承知を得て、可及的速やかに法人化の手続きを進めたいと考えています。

同窓会のさらに充実した活動の展開のために、諸兄諸姉の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(別記一)

鴨沂高校同窓会役員名簿

会長	猪熊 兼勝 (8期)	小山あけみ (3期)
副会長 (空席)		
理事長	西尾 齊 (10期)	今井 章夫 (4期)
会計	田中 清子 (5期)	山本 啓造 (5期)
	木村 正 (14期)	谷水三喜男 (7期)
	戸川 隆博 (11期)	川島芙美子 (10期)
	木村 要 (1期)	戸川 隆博 (11期)
	仲谷 喬 (3期)	小島 正道 (12期)
	藤野 英雄 (4期)	安井 洵 (13期)
	田中 清子 (5期)	村田 博史 (14期)
	山本 盛一 (6期)	近藤 善彦 (15期)
	坂本 秀文 (7期)	佐川 公也 (16期)
	西尾 齊 (10期)	青木 栄子 (19期)
	藤田 陽三 (11期)	杉足 泰彦 (22期)
	河合 勝彦 (13期)	
	木村 正 (14期)	
	熊谷 勝 (15期)	
	谷口明日香 (15期)	
	永野 福夫 (17期)	
	鈴木 正穂 (19期)	
	鈴木 穂人 (47期)	

(別記二)

DELL製パソコン Dimension4600C
 17インチ TFT液晶カラーモニター
 CD-RW/DVDコンボドライブ
 WindowsXP professional
 Microsoft Office 2003 profession
 Word Excel Access
 カラープリンター
 キヤノン製 PIXUS56500i A3ノビ対応

(別記三)

「会員データの取扱いについて」

★利用目的

会報の発行、総会の通知、同期会等各種同窓会活動のため

★登録データの範囲

氏名(旧姓)、住所、〒番号、電話番号、卒業期、卒業年度、卒業時クラス、同番号、会費納入金額・年度、シリアル番号

★データの開示、訂正等

保有個人データについては、本人の求めに応じて開示、訂正、利用停止を行う。

★その他

総会、理事会、同期会、クラス会の開催のための幹事となる会員以外の第三者には、本人の同意を得ずにデータの提供を行わない。

以上

同窓会開催報告

鴨沂高校関東支部

活動状況報告

支部長 西裏 正(十一期)



総会の開催おめでとうございます。開催にあたり、会報に関東支部の活動状況掲載の依頼があり、ここに報告いたします。

去る十七年前、平成元年に(株)京都鴨沂会東京支部より関東地区在住の鴨沂高校同窓生に入会の勧誘があり、将来的には引き継いでほしいとの提案がありました。鴨沂高校各期同窓会役員が集まり検討した結果、合流、引き継ぎは難しいが、これを機に関東地区鴨沂高校同窓会を立ち上げたいとの意見が多く、初代久保田委員長(二期)の元に第一回総会を平成二年二月、一六〇〇余の名簿案内を出し、三〇八人の出席があり大盛会でした。以来、三年毎に総会は開催しておりますが、各期の同窓会が毎年の様に活発に行われていることもあり、総会の出席者は二二〇人、一五〇人に減っております。昨年より、名簿管理の効率化、情報交換等を考慮し、関東支部となりました。

先日、(株)京都鴨沂会東京支部長橋様より、高齢化、支部長の後継難等の理由で高校に引き継ぎの打診があり、役員会で検討しましたが、残念ながら受けられないことになりました。その結果、鴨沂会東京支部は、平成十八年十月に解散されることになり、自主的に高校同窓会入会希望者は受け入れることになりました。そこで、次回第六回鴨沂高校関東支部同窓会は、これまで鴨沂会が利用されてきました由緒ある霞ヶ池(霞ヶ池ビル三十四階)で、平成十八年五月二十七日(土)に開催します。関東在住の同窓生だけでなく、日本全土の同窓生の参加を歓迎いたしますので、同期の幹事役員に連絡下さい。

最後に、高校創立六十周年を三年後に迎えますが、一人でも多く同窓の輪が広がることを祈念しております。

第一期卒業生

同窓会について

幹事 辻 知之(二期)

一九九九年「卒業五十周年記念同窓会」を宝ヶ池のプリンスホテルで開催、昨年二〇〇四年四月十二日に「五十五周年記念祝賀会」を国立京都国際会館で開催しました。庭園に面した「スワンの間」から満開の八重桜と北山に咲く三つ葉つじの花を愛でながら、五十七名の参加者が楽しく歓談、会の後に庭園の茶室や会議場等の施設を見学しました。卒業後、早くも五十五年の歳月が過ぎたことに改めて感慨にふけった次第です。

第一期卒業生は戦後の新学校制度への転換期にあり、旧制の中学校を終え、一九四八年四月から暫定的にそれぞれの新制高校三年に編入しました。当時は男女共学に反対の意見があり、結論が出る迄時間が掛かり、男女共学の鴨沂高等学校として発足、再編入したのは同年の九月のことでした。四三九名が九組に分かれて、短い期間でしたが、自由な空気の中で青春を過ごすことが出来ました。

上記同窓会を機に、卒業生名簿の整理を行いました。物故者や住所不明の人も多く、現在住所が分っている人は二七九名、この内一八二名の方から回答が得られました。年齢的にみて、五年毎の同窓会では間が開き過ぎるので、短縮して開催して欲しいとの要望があり、二〇〇七年に「喜寿を迎える会」の名目で、次回同窓会の開催を検討中です。

第四期卒業生

今井 章夫(九組)

私たちは十四クラス編成。学年は六七五名。最大規模の七組は生徒が男女合わせて五十五名という、今ではとても考えられない、まさにマンモス学年であった。

学制改革の荒波にさらされ、破天荒の経験の毎日であった。教室に溢れかえる生徒。荒れ果てて行く旧府一の教室。迫り来る食料不足。栄養失調。越境通学の横行。

過激派大学生オルグへの対応。校内の温水プールに乗りつける進駐軍のジープの横暴。議論が分裂している。情報の漏れて来る職員会議。枚挙にいとま無しという状況であった。

しかし、そのような中にあっても、私たちは在学三年間に、本当の意味での「良き師・良き友」に恵まれて、揺れ動く青春の、心にしみる日々を送ることができた。六七五名の四期生の忘れ難い至宝の三十六か月でもあった。そういうわけで、同窓会は、以下のように催されている。

- ① 卒業三十周年記念同窓会 京都ホテル 260名出席 昭57・5・23
 - ② 卒業三十五周年記念同窓会 京都ホテル 226名出席 昭62・5・24
 - ③ 第三回同窓会 京都グランドホテル 179名出席 平4・5・17
 - ④ 第四回同窓会 京都ホテル 205名出席 平9・6・15
 - ⑤ 卒業五十周年記念同窓会 京都ホテル 150名出席 平14・7・6
- 恩師のご出席も途絶えがちになり、物故する学友も次第に増える。今後どのような経緯をたどるのか、一抹の不安が頭を横切る。
(平17・6)

第七期卒業生

『七鴨会』同期同窓会の活動について

七鴨会事務局 今岡 公栄(七期)

『七鴨会』(七期生)の同窓会も本年で九回を迎えました。三年毎に実施しております。本年は、新都ホテルで一五三名の参加を得て、四人の先生の内三名のご参加を戴きました。毎年六月に実施しておりますが、なぜ六月なのかと言うご意見もあります。行事の少ない月ではないかと思っております。

最近特に、小・中の同窓会・クラス同窓会も多く、他府県からは選沢され、どれも出る訳にはいかないようになり、加に制約もあるように思います。ここに二、三年『七鴨会』では、ジャズバンド(オール

デイズ)や沖繩の民謡を入れ、会を盛り上げるようにしています。これも最初に演出しないと話が弾むと誰も見聞きなくります。毎回一五三名の記念写真撮影も続けていますが、二組をセットに六回行っています。全員撮影は、顔が小さくて記念撮影になりません。年を取り、写真は嫌だという声も聞こえます。私も、事務局を四回していますが、そのお陰で、友人が多くできました。ゴルフ、マージャン、カラオケ、囲碁、海外旅行等も一緒に楽しんでおられるグループもできています。たまには、有名な料理店で皆で昼食会を楽しんだり、お喋りしたり。

三年毎に十名以上の同窓生の黙祷は、寂しさを感じますが致し方ありません。今回は、医師の同窓生が『楽しく生きる』との講演をしてくれました。老いても、積極的に考え行動し、週三回は体を動かす、その事が楽しく生きる基本とお話をいただきました。

同窓会での出会いを作り、安心して付き合えるのは、同窓生ではないでしょうか。

我が鴨沂高校卒業生は、京都でNo.1の誇れる高校です。私もまだ、仕事にボランティアに、充実した毎日を送っています。七鴨会が、これからも明るく楽しく元気な同窓会であることを祈ってやみません。

第十期卒業生

鴨沂高校へ口ケ決行

伊藤 晴夫 (十期)

高校時代の私は授業中に先生の似顔絵を描いたり、下手なマンガを書いて人に見せて喜んでいました。毎年、商業美術部の則元先生指導で、国連のポスターに応募して入賞したことが、今の仕事につながりました。

民放テレビ局が開局した頃からコマージュの企画・演出の仕事を始めました。当時は商品の良いところをずばり表現したユーモアのあるCMが制作され、カンヌ映画祭で(CMのカンヌ映画祭があることを知っている方は少ないようです)会社の作品が二回グランプリを取りました。私も百万円近い小遣いをもらい、タキシード姿で参加しました。タキシードを着たのはこれ一回きり。

今回、十期生の同窓会で幹事長から、何か新しい企画はないかと相談を受けました。そこで、映像が少しでも生かせたらと、今の内にお元気な先生を訪問してお話をいただいた。また多くの先輩、後輩の学んだ鴨沂高校を撮影しておこうと提案。急いでコンテを仕上げました。問題は制作費とスタッフでした。やればなんとかなるだろうと撮影を決定。幸いカメラ機材はありましたが、カメラマン、助手、音声さんのお金がありません。そこで同窓生に手助けを頼みこみ何とか解決。先生方の住まい探しから始まりました。幸い京都近辺にお住まいで安心。

松岡先生、浜田先生、西川先生、山下先生、川井先生、深井先生宅を訪問。鴨沂の口ケは生徒がいよいよ日曜日に決行。三階の教室まで機材を運ぶのにフウフウ。六十五歳のスタッフは心強い?十日間の口ケは無事完了。更に同窓生のテニス、囲碁、短歌、ゴルフ等のクラブ活動も撮影。後は編集室を探すのに一苦勞。昼間は仕事でつまっているの、編集の開始は深夜から朝まで。三日間の深夜作業で同窓会ぎりぎりに完成。二〇〇四年六月六日、同窓会会場で上映。「やったねえ」と先生を始め、参加者全員から大きな拍手をいただき、関係スタッフは今までの苦勞が一瞬に吹き飛びました。

「お前らの学年はなんでこんな仲が良いのや」と深井先生のお言葉。十期生同窓会の参加人数一七五名。他の学年でこれだけは集まらないだろうと、自負している十期生です。

第十一期卒業生

十一期 三三三会

戸川 隆博 (十一期)

昭和三十三年卒業の十一期生は「三三三会」と称して、二年毎の九月の第二日曜日に集う日としています。

初めはオリンピックの年の九月十五日を開催日としていましたが、真冬のオリンピック開催年が変更になってから二年毎になり、いつしか我々が敬老の日にかかわる時代になって、敬老の日を外した近い日曜日を二年毎の例会日としています。

時によつては、里帰りを兼ねて海外からの出席や、国内も遠くの地から懐かしく集まってくる。まだまだ老いたる両親を気遣う時代が続いていますが、次第に年上のご主人の老いを見つづ、社会人になった子供達に老いを感じさせてしまう時代に突入しつつあります。

毎例会一〇名ほどの出席者と、お元気な恩師がお見えになる。青春の面影を目前の友に探しながら、スライドさせて気持ちはお互いに十代に戻っている。今に至る積年を越えたこの一瞬、一瞬は若くあり続ける(?)、若さを取り戻す秘薬ではないか。

関東在住者はまとまりよく、毎年東京で例会を開き旧交を温めている。第一線を退きつつある年頃になって、気軽に参加しやすい年代こそ今です。

今回は平成十八年九月第二日曜日に、輝いた眼で語り合える時は至宝の時間です。

第十三期卒業生

安井 洌 (十三期)

私達第十三期生は、昭和三十三年(一九五八年)入学時の生徒数は普通科・商業科合わせて六〇九名(男子三七七名・女子二三二名)十二クラス。三年では十三クラスでした。水球部の全国制覇に象徴されるようにクラブ活動も活発で、運動部二〇・文化部三二と大学並の多彩な活動を誇っていました。生徒自治会の活動も活発で、歴史的な「六〇年安保」を高校三年に経験した世代でもあります。

通学圏も「小学区制」のお陰で、小・中・高を通じての学友が多く、卒業して四十年を経た今でも旅行に一緒に出かける等、生涯の友人としての交流も盛んです。

本格的に同期の同窓会の総会が開かれたのは五〇歳を迎えた平成四年(一九九二年)で、その後五年毎に平成九年(一九九七年)・平成十四年(二〇〇二年)と続いています。特に前回平成十四年の総会は「還暦記念の同窓会」として開催し、都ホテル京都に一八〇名が集い、卒業時クラス担任の毛利優(九〇代)・深井隆三(八〇代)・山下俊正(七〇代)の三先生のお元気な挨拶を受けることができました。その総会で、「五年毎の開催を、三年毎開催にす

る。」ことが確認され、今年九月十日(土)午後六時から「京都宝ヶ池プリンスホテル」で開催することになっていました。総会の開催準備のために、平澤裕同窓会長を中心に、各クラス代表幹事六〇名近くが選ばれ、同窓生に声を掛け合っていることが一八〇名もの参加者がある秘訣ではないかと思っています。

第十四期卒業生

同窓会現況の報告

木村 正 (十四期)

同期同窓会は、昭和五十七年に第一回を開催して以来、三年から五年間隔で、平成十五年十月四日の開催で第六回を数えます。

第六回は、宝ヶ池・京都国際会館の「さくらの間」を借り切って、十三クラスから二一六名が参加しました。

今回は参加しやすいように、会費を七、〇〇〇円と二次会費三、〇〇〇円にして、最初のお酒をテーブルに割り当て、これ以上飲みたい人には、お酒チケットを用意して、幹事の女性がバニーガールに扮して販売し、お酒を飲まない人に負担がかからないようにして大変好評でした。

二次会は、向かいの宝ヶ池プリンスホテルとしたため、移動も簡単に交通の便もよく、これも好評でした。

次の第七回同窓会は、平成十八年九月を予定しております。

第十五期卒業生

谷口 明日香 (十五期)

卒業二〇周年を期に、五年毎に同期会を開催しています。今までに第一回は一九八三年京大会館、第二回は一九八八年白沙村荘、第三回は一九九三年岡崎サンフラワーホテル、第四回は一九九八年都ホテル、第五回は二〇〇三年京都ホテルと致しました。出席者はそれぞれ一〇〇、一五〇人位です。

五十九才を迎えた前回は、本人の健康状態や両親の介

護のことが話にのびりました。

その回毎に、各組より男女一名ずつ幹事を選出し、互選された実行委員長のもと、日時・会場など全てをその会で決めていきます。会費は、第三回より郵便振込の前納制になっています。当日、最新版の名簿を発行配布します。

第二回・第三回は、会員出品によるオークションや福引をしていましたが、最近では気楽な会食のみになっています。次回も、二〇〇八年の予定です。

いちご(二五)会と命名して、別に関東支部があります。約三十名程の会員がいます。年に一度の会合を持っており、日光への一泊旅行や今夏は東京湾クルーズも楽しみました。

京都より同期生の上京の情報が入ると、ミニクラス会が開かれ、お互いの近況報告の場となっています。

第十九期卒業生

私達の同期会

十九期会幹事 青木 栄子 (十九期)

私達が鳴沂高校を卒業して十余年経ち、三十才を過ぎた頃同級生の鈴木正穂君が市議員に立候補しました。応援の為同期生が集い、その中の数人が核となり翌年から政治・宗教・利害関係のない純然たる同期会が発足し、現在に至っています。会の名は、私達の卒業年間にちなみ「十九期会」になりました。毎年開催しており今年で二十三回目になります。最初は京都を離れている人が帰省

するお盆休みに開催していましたが、月日の過ぎるのは早いもので、自分達の家が実家となり子供の里帰りを待つ年令になってしまい、お盆は出かけるにいくという声が多く、数年前からは夏と秋交互の開催にしています。

会員に案内を出し、年一回高校時代の昔に戻り、旧交を温めています。総会とは別に趣味の集い、山岳部が出来、年に数回山登りを楽しんでいます。その他、数人の気の合う者で旅行に行ったり、食事や飲み会をしたりと、あちこちでミニ同期会が開かれています。又東京方面には支部的な集まりもあり、京都から誰かが仕事等で上京すると電話一本で集合とワイワイ飲み会をやっている様です。

毎年の開催なので参加人数も多かったり少なかったりです。開催を隔年に、いや三年毎になどの意見もありましたが「遠いので参加出来ませんが会報を楽しみにしています」とか「今は諸事情で行けません、そのうちきつと行きます。」などの返信が届くと、この会を毎年開催することが一番大切な事であると思っています。

第二十二期卒業生

二十二期同窓会を振り返って

幹事 杉足 泰彦 (二十二期)

オリンピックが来ると懐かしい素敵な笑顔に再会できる。四年に一度の楽しい思い出。

二〇〇四年十一月十三日(土)に京都パークホテルにて同期会を開催しました。

今回は、冬ソナの「初恋」をテーマにそれぞれの思いを聞いてみましたが、憧れの君もイケメンの彼も当時と容姿や性格は変わっているが、時間を忘れて食べ物も余るほど会話に熱中するグループや当時出来なかったツッコミの写真撮影に興じる者など二次会や三次会まで盛り上がる会でした。

恩師の近況やビンゴゲームなどを織りませ飛び入りの二代目森之福郎氏も漫談をしていただき、時間が駆け足で過ぎ去っていくのを実感しました。

また、今回は卒業三十四周年で、恩師や仲間にも物故者が少し増えてきたことや話題が子供から健康管理や親の介護及び孫の誕生や守りなど時代を感じる会でもありました。

参加者は、東京から九州、はてはアメリカなどにも居住しており、秋の行楽日和の開催にあたっては、宿泊のホテルも満配にてお盆の時期に変更するなど検討課題もありました。

写真はもとよりプロによるビデオ撮影などもあり、それらを見ながら後日には、各々のグループによる反省会(ミニ同窓会)も盛んに行われたとのこと。幹事としては憧れの君に再会出来なかったのが唯一心残りでしたが、皆の笑顔に再会し、元気をもらい次の同窓会まで頑張っていくと思えました。

鴨沂にまつわる書籍紹介

御雇外国人「J・A・ウィードの六年間」
京都府農牧学校物語 ■ 拝師 暢彦…著

明治初め、京都府丹波町に設立された府農牧学校の軌跡をたどった「御雇外国人J・A・ウィードの六年間 京都府農牧学校物語」を元府立高校長が出版した。同校は府立須知高の前身で、開校後、わずか二年七月で廃校に。本では、府の農牧政策や米国出身のウィード氏の苦闘ぶりを浮き彫りにし、ほとんど知られることのなかった府農牧学校の裏面史に光を当てている。

京都市中京区に住む元府立鴨沂高校長、拝師暢彦さん(六〇)。一九八三年、須知高に赴任して、府農牧学校の存在を知った。札幌農学校などと共に日本三大農業教育発祥の一つにたえられながら、短期間のうちに廃校の道をたどった運命を不思議に思った。

同高や府が保管する記録文書、資料を収集し、古老に思ひ出話を聞き取った。退職した二〇〇四年春から原稿執筆に打ち込み、先月末に出版にこぎ着けた。

拝師さんは「短期間で廃校になったものの、ウィードさんの疫病に対する研究をはじめ、地域の農業教育や府内の牧畜発展に寄与した府農牧学校の存在意義は大きい」と話している。

本はA5版、千三百円。問い合わせは京都大生協・西部会館ルネ ☎075(771)7336。

「二〇〇五年六月十九日付け京都新聞より抜粋させていただきます。」

著者 J.A. ウィードの六年間
京都府農牧学校物語



本はA5版、1,300円。問い合わせは
京都大生協・西部会館ルネ
TEL 075-771-7336

「酒はなめるように飲め」 ■ 北沢 恒彦…著
「酒はいかに飲まれたか」 ■ 山田 稔…著

このお洒落な小さい二冊組の本には、五十数年前の鴨沂高校の青春が詰まっています。著者の山田稔氏は、第一期卒業・北沢恒彦氏は五期か六期の卒業。一九五〇年代の鴨沂高校の学校行事・師弟の間柄・勿論その当時の社会状況など、つぶさに語られています。その頃の生徒は、知的レベルが高く、一途で、真摯。大人びていた感じがします。先生方は若々しく、情熱的だった。ともに青春だったのではないのでしょうか。この本に登場される先生方の中で、私が習ったのは、数学の林敦子先生だけです。数学は苦手で成績もよくなかったけれど、上品で知的な林先生は、憧れるすてきな女性でした。

両著ともに百萬遍近辺が多く描かれており、私も長く暮したなつかしい場所です。北沢氏のご長男黒川創さんと私の息子は、第四錦林小学校の同級生です。京都の教育制度は、長い間小学区制でしたから、人々と地域の関わりが濃密です。若い卒業生の皆様にも、ご兄弟・ご両親が鴨沂高校卒業の方は多いと思います。当時の鴨沂高校の様子、その時代を感じて頂ける、そんな本です。是非ご一読ください。鴨沂のすばらしい世界を語り継ぎましょう。
(十期卒・安東 一枝)



発行・発売…編集グループ
<SURE>
連絡先…〒606-8301
京都市左京区吉田泉殿町47
TEL・FAX 075-761-2391
定 価…1,500円+税
『酒はなめるように飲め』
『酒はいかに飲まれたか』
[2冊1組価格、分売不可]

あなたと私をつくる学校があります 『鴨沂へようこそ』

すべては、とある居酒屋で始まった。二〇〇二年に鴨沂高校のPTA会長だった、写真家でもある神谷氏の一言から。「鴨沂の本を作ろう」。PTA活動を通じて知り合った十四人が、良くも悪くも一人歩きしている鴨沂高校の本当の姿を、みんなに知ってもらいたい、そんな思いを「本を作ろう」の一言にこめたのだ。みんな鴨沂が好きだった。好きに十人十色はあったけれど。

この本を手にした方々は、あちらこちらに載っている写真とともに、鴨沂の「てらもん」をくぐり、すりきった階段をかけのぼり、窓からウィーンの森を眺めることでしょうか。体育祭や文化祭、自治会活動やクラブ活動、ホームルームの生徒たちを、そしてかつて青春を謳歌した自分の姿を見出すことでしょう。

本は、第一章―十三節から成る生徒たちの学校生活。第二章―府立第一高女時代の思い出。鴨沂会会長(二〇〇三年当時)の近藤さんへのインタビュー。第三章―卒業生をはじめとする鴨沂関係者十三人からの投稿、で構成されています。あちらこちらに載せたイラストは、卒業生の鋸屋有里さんに描いていただきました。すべて自作で成りました。

鴨沂が鴨沂であり続けてほしい、すべての子供たちが生き生きとした自由な高校生活を送ってほしい、そんなメッセージを感じ取ってもらえることを願って、一人でも多くの方にこの本を手にしていただきたいと思っています。
(文責：瀧本佳代)



発行…鴨沂のほんをつくる会
(代表：神谷潔)
連絡先…〒603-8054
京都市北区上賀茂桜井町28
北山マンション203号
スタジオ北山山荘
TEL 075-722-1209
FAX 075-791-2673

鴨沂高校同窓会の皆様へ

（社）京都鴨沂会会長 伊達 恭子



皆様、嵯京都鴨沂会についてご存知でしょうか。嵯京都鴨沂会（鴨沂会）は明治二十年七月二十八日（一八八七）に旧卒業生が同窓会を組織し、名付けて「京都鴨沂会」としたのに始まります。その

後明治四十二年六月十日（一九〇九）社団法人設立の件を文部省に申請、同年八月三日に認可を受け、本会を「嵯京都鴨沂会」と称しました。社団法人とは法律により法人として認められた、一定の目的のために設立された団体です。故に、公益事業を目的とした会の運営を計らねばなりません。

定款で会員は京都府立京都第一高等女学校（府一）鴨沂学園の卒業生となっていたため、京都府立鴨沂高等学校卒業生が、直ちに鴨沂会の会員になることはできませんでした。「嵯京都鴨沂会」と「京都府立鴨沂高等学校同窓会」が合併できないわけは、法人であるものとそうでないものとの一つにすることはできない、という理由によりです。昭和五十九年一月五日（一九八四）定款の改正をして鴨沂高校卒業生の方にも鴨沂会の会員になっていただけるようになりました。

嵯京都鴨沂会は単なる同窓会ではなく、会員には定款で会費の納入が義務づけられており、府一の卒業生といえどもすべてが会員とはいえません。

府一卒業生の会員の減少と、十年前は五百人近くあった鴨沂高校卒業生の会員数が三百二十五人と減少している現在、嵯京都鴨沂会が今後どうあるべきか真剣に考えるべき時期になっております。会員である鴨沂高校卒業生の皆様からのご意見をお願い申し上げます。



鴨沂会館

～ご案内とお誘い～

鴨沂会館は皆様の憩いと交歓の場、そして教養の泉です。実り豊かな人生を素敵に過ごすために是非ご利用下さい



会場・会議室

■平日 ■10:00～21:00
■日祝日 ■10:00～17:00

数名の小集会室から100名収容の大ホールまで。和室もございます。同窓会、研修会、会議などの他、コーラス、管弦楽などの練習、バレエ、ダンスのレッスン場などにご利用下さい。ピアノやスライドの用意もございます。

文化教室

広く市民の皆様を対象に様々な講座を設けております。

「文学講座・大鏡」「書道」「女声コーラス 沙羅」「音楽教室」「俳画・幸翠会」「金剛流謡曲仕舞教室」「俳句同好会」「手芸こでまり会」などがございます。是非ご参加下さい。

お問い合わせ (社) 京都鴨沂会 075-231-1001

平成17年度

京都鴨沂会 親睦会

平成17年10月30日(日) 10時～15時

鴨沂会館にて 075-231-1001

鴨沂高校同窓会会計報告

平成14年4月1日～平成17年3月31日（3年分合計）

（単位：円）

支出の部			収入の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
総会費	1,500,000	954,930	前期繰越金	11,000,679	11,000,679
会報製作発送費	5,700,000	2,121,831	年会費収入	6,000,000	4,612,490
会議費	90,000	37,668	総会収入	1,500,000	590,000
通信費	150,000	147,245	預貯金利息収入	240,000	14,577
雑費	100,000	90,156	名簿等収入	90,000	35,050
名簿DB維持費	600,000	52,857	寄付収入	0	31,597
予備費	700,000	0			
小計	8,840,000	3,404,687			
次期繰越金	9,990,679	①12,879,706			
合計	18,830,679	16,284,393	合計	18,830,679	16,284,393

①次期繰越金明細

手許現金	28,443
通常貯金	1,294,950
定額貯金	6,961,823
振替口座	4,594,490
合計	12,879,706(円)

◆会費についてのごお願い◆

平成12年度より同窓会財政の健全化を目的として、会員の皆様より会費のご協力をお願いすることが前々回の総会で決議されました。

この旨を同窓会会報でお伝えしましたところ、多くの会員の皆様からご賛同と会費の納入を戴きました。中には25年分を前納下さる方もおられて、改めて同窓会への期待と母校への皆様の思いを感じることが出来、お世話する私どもも改めてその責の大きさを思い、たいへん感謝しております。ほんとうにありがとうございました。

しかし、上々の滑り出しとは言いながらその数は全体から致しますとまだまだ少数でございます。何とぞ同窓会のより一層の発展と確かな財政基盤を確立して継続していくために、会員の皆様方のご協力が欠かせません。個別の納入状況は別紙にその詳細が記載してありますので是非ご確認、ご参照下さい。

同窓会の活動は、実費弁償すらない役員のご完全な無料奉仕によって賄われています。役員の皆様方の志のみに依拠することも限界があります。おりしも長年の懸案であった事務所の設置も、鴨沂会のご厚意で鴨沂会館内にその場を得ることが出来、一歩前進が果たせました。しかしながら、専任の事務員が配置されているわけでもなく、将来的には希望があるものの、まだまだ懸案は数多くございます。

これらの懸案を一つ一つ解決していくためにも健全財政の確立は不可欠です。そしてそれは皆様方からお預りする会費に依拠する以外、方法はありません。

何とぞより一層、皆様方のお気持ちに委ねて会費の納入にご協力をお願い致したく思います。そして鴨沂高校同窓会が皆様方の母校への思いと、それぞれの有益な人間関係の拠り所となれば幸いです。

最後に同窓生の皆様のご健康とご発展をお祈りしお願いと致します。



編集 後記

▼三年振りの同窓会総会が近付いて西尾理事長からのお声がかかり編集の手伝いをする事になりました▼元同窓会長秋田宗平氏初め多くの理事の皆様が粘り強い再建のご努力が実り、再建後十年以上を経て鴨沂高校同窓会も、何とか順調な歩みを続けております▼さて今号は、

関東支部同窓会の報告をはじめ、一期から二十二期の各期同窓会の幹事の方々のご協力を得て「同窓会開催報告」を特集しました▼まだまだ多くの同期同窓会が活発に開催されているようですので次号にはぜひ報告を御寄せください▼平成十年に新聞局の「鴨沂新聞復刻版」・平成十四年には、文芸部の『年輪』復刻版が続いて出版され話題になりましたが、最近出版された鴨沂にかかわる話題の三冊の書籍の紹介を企画しました▼同じような書籍の出版がありましたらぜひお知らせください▼今号は、紙面を横書きから縦書きにするなど刷新を試みましたが次号に向けてご意見を御寄せ下さい▼特に紙面の刷新には、小野高速印刷（株）の中尾様に多くのサポートをいただきました。改めてお礼申し上げます▼十一月二十日（日）の総会にぜひ多くの同窓生を誘い合わせご出席下さい。（測）